

平成26年11月6日

東京地下鉄株式会社

平成27年3月期第2四半期決算について

(金額単位:百万円)

百万円未満切捨て表示

1. 連結経営成績の概要

- 当期の決算は、緩やかな景気回復による沿線の経済活動の活性化等に伴い、当社の旅客運輸収入が引き続き堅調に推移したことやデジタル広告の導入拡大等に伴う広告収入の増等により、営業収益、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに増加

	26年3月期 第2四半期(累計) A	27年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
営業収益	194,987	198,614	+3,627	+1.9%
運輸業	164,280	167,292	+3,012	+1.8%
(旅客運輸収入)	(155,142)	(157,841)	(+2,698)	(+1.7%)
流通・不動産事業	20,739	20,932	+193	+0.9%
その他事業	9,967	10,389	+421	+4.2%
営業費	141,033	143,905	+2,871	+2.0%
営業利益	53,953	54,709	+755	+1.4%
経常利益	46,330	47,847	+1,517	+3.3%
四半期純利益	28,450	30,704	+2,253	+7.9%

① 営業収益 1,986億円 (前年同期比+36億円)

- 運輸業は、緩やかな景気回復による沿線の経済活動の活性化等に伴い、当社の旅客運輸収入が引き続き堅調に推移したこと等により、増収
- 流通・不動産事業は、Echika fit永田町の通期での寄与等により、増収
- その他事業は、デジタル広告の導入拡大等に伴う広告収入の増加により、増収

② 営業費 1,439億円 (前年同期比+28億円)

- 当社の修繕費や電気料等の諸経費の増等により、増加

③ 営業利益 547億円 (前年同期比+7億円)

④ 営業外損益 △68億円 (前年同期比+7億円)

- 営業外収益は、1億円増加の6億円
- 営業外費用は、支払利息の減少等により、6億円減少の74億円

⑤ 経常利益 478億円 (前年同期比+15億円)

⑥ 特別損益 △0億円 (前年同期比+0億円)

- 特別利益は、鉄道施設受贈財産評価額等の計上により、20億円増加の33億円
- 特別損失は、固定資産圧縮損等の計上により、20億円増加の33億円

⑦ 四半期純利益 307億円 (前年同期比+22億円)

2. 財政状態及び長期債務の概要

- ・当期末の総資産額は、前期末の工事代の支払に係る現預金等の減少や、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴い退職給付に係る資産が減少したこと等により、前期末比314億円の減少
- ・当期末の負債額は、主に前期末に計上した工事代等の未払金の支払や長期債務の返済により、前期末比323億円の減少
- ・当期末の純資産額は、四半期純利益の計上の一方で、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響や配当による減少により、概ね前期末並み

	26年3月期 期末 A	27年3月期 第2四半期 B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
資産合計	1,299,323	1,267,889	△31,433	△2.4%
負債合計	829,903	797,586	△32,317	△3.9%
純資産合計	469,419	470,302	+883	+0.2%
長期債務残高	627,431	604,090	△23,340	△3.7%
自己資本比率	36.1%	37.1%	-	-
D/E レシオ	1.3倍	1.3倍	-	-

(注1 長期債務残高=長期借入金残高+社債残高)

(注2 D/Eレシオ=長期債務残高/純資産額)

3. キャッシュ・フローの概要

- ・営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の増加があったものの、法人税等の支払額の増加等により、前年同期比41億円の収入減となる517億円の資金の流入
- ・投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資等により、前年同期比61億円の支出増となる418億円の資金の流出
- ・財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入があったものの、長期債務の返済及び配当金の支払により、前年同期比188億円の支出増となる302億円の資金の流出

	26年3月期 第2四半期(累計) A	27年3月期 第2四半期(累計) B	増減 金額 B-A
営業活動による キャッシュ・フロー	55,862	51,757	△4,104
投資活動による キャッシュ・フロー	△35,660	△41,846	△6,185
(フリー・ キャッシュ・フロー)*	(20,201)	(9,911)	(△10,290)
財務活動による キャッシュ・フロー	△11,368	△30,212	△18,844
現金及び現金 同等物の増減額	8,833	△20,301	△29,134
現金及び現金 同等物の期末残高	39,788	18,270	△21,517

* (フリー・キャッシュ・フロー) = 営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー

【参考1】平成27年3月期第2四半期 連結損益計算書及びセグメント情報

連結損益計算書

(単位:百万円)	26年3月期 第2四半期 (累計) A	27年3月期 第2四半期 (累計) B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
営業収益	194,987	198,614	+3,627	+1.9%	
営業費	141,033	143,905	+2,871	+2.0%	
営業利益	53,953	54,709	+755	+1.4%	
営業外収益	516	630	+114	+22.2%	
営業外費用	8,139	7,493	△646	△7.9%	
(うち支払利息)	(8,013)	(7,401)	(△611)	(△7.6%)	
経常利益	46,330	47,847	+1,517	+3.3%	
特別利益	1,281	3,333	+2,051	+160.1%	受贈財産評価額 +2,069
特別損失	1,337	3,362	+2,024	+151.4%	固定資産圧縮損 +2,051
税金等調整前 四半期純利益	46,274	47,818	+1,544	+3.3%	
四半期純利益	28,450	30,704	+2,253	+7.9%	

(百万円未満切捨て表示)

セグメント情報

(単位:百万円)	26年3月期 第2四半期 (累計) A	27年3月期 第2四半期 (累計) B	増減		主な増減要因	
			金額 B-A	率 (B-A)/A		
運輸	営業収益	170,953	174,892	+3,938	+2.3%	旅客運輸収入の増
	(うち対外部顧客)	164,280	167,292	+3,012	+1.8%	
	営業費	122,167	125,386	+3,218	+2.6%	諸経費の増
	営業利益	48,786	49,506	+719	+1.5%	
流通・ 不動産	営業収益	20,760	20,962	+201	+1.0%	Echika fit永田町の通期での寄与
	(うち対外部顧客)	20,739	20,932	+193	+0.9%	
	営業費	17,781	17,477	△304	△1.7%	施設リニューアル費用の反動減
	営業利益	2,979	3,485	+505	+17.0%	
その他	営業収益	10,574	11,055	+481	+4.6%	デジタル広告の導入拡大
	(うち対外部顧客)	9,967	10,389	+421	+4.2%	
	営業費	8,427	9,370	+943	+11.2%	広告媒体の仕入額の増
	営業利益	2,147	1,685	△462	△21.5%	

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。

(百万円未満切捨て表示)

内訳の合計値は連結営業収益・連結営業利益と一致しません。

【参考2】平成27年3月期第2四半期 連結貸借対照表

(単位:百万円)	26年3月期 期末 A	27年3月期 第2四半期 B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
流動資産	95,324	77,631	△17,693	△18.6%	
現金及び預金	19,582	18,158	△1,424	△7.3%	
その他	75,742	59,472	△16,269	△21.5%	短期貸付金(現先) △18,997
固定資産	1,203,998	1,190,258	△13,740	△1.1%	
有形固定資産	1,070,022	1,065,511	△4,511	△0.4%	
無形固定資産	93,570	92,314	△1,255	△1.3%	
投資その他の資産	40,405	32,432	△7,973	△19.7%	退職給付に係る資産 △17,387 繰延税金資産 +9,242
資産合計	1,299,323	1,267,889	△31,433	△2.4%	
流動負債	173,920	160,651	△13,268	△7.6%	
短期借入金	-	6,000	+6,000	-	
1年内返済長期借入金 及び1年内償還社債	42,681	47,581	+4,900	+11.5%	
未払金	41,509	17,334	△24,174	△58.2%	
未払法人税等	19,571	17,263	△2,308	△11.8%	
その他	70,157	72,471	+2,314	+3.3%	
固定負債	655,983	636,934	△19,048	△2.9%	
社債	370,000	360,000	△10,000	△2.7%	
長期借入金	214,749	196,508	△18,240	△8.5%	
その他	71,233	80,426	+9,192	+12.9%	退職給付に係る負債 +8,732
負債合計	829,903	797,586	△32,317	△3.9%	
純資産	469,419	470,302	+883	+0.2%	
負債・純資産合計	1,299,323	1,267,889	△31,433	△2.4%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考3】平成27年3月期第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	26年3月期 第2四半期 (累計)	27年3月期 第2四半期 (累計)	増減 金額	主な増減要因
	A	B	B-A	
営業活動によるキャッシュ・フロー	55,862	51,757	△4,104	
税金等調整前四半期純利益	46,274	47,818	+1,544	
減価償却費	33,594	33,097	△496	
営業債務の増減額	△6,223	△9,176	△2,952	
その他	△369	△856	△486	
法人税等の支払額	△17,412	△19,125	△1,713	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△35,660	△41,846	△6,185	
設備投資額	△36,740	△42,868	△6,128	
補助金の受入による収入	269	336	+66	
その他	809	686	△123	
(フリー・キャッシュ・フロー)	20,201	9,911	△10,290	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,368	△30,212	△18,844	
短期借入金の純増減額	-	6,000	+6,000	
長期借入れ及び社債の発行による収入	19,943	9,000	△10,943	
長期借入金の返済及び社債の償還による支出	△19,621	△32,340	△12,719	
配当金の支払額	△11,620	△12,782	△1,162	
その他	△70	△89	△19	
現金及び現金同等物の増減額	8,833	△20,301	△29,134	
現金及び現金同等物の期首残高	30,955	38,572	+7,616	
現金及び現金同等物の期末残高	39,788	18,270	△21,517	

(百万円未満切捨て表示)

【参考4】平成27年3月期第2四半期 個別損益計算書

(単位:百万円)	26年3月期 第2四半期 (累計) A	27年3月期 第2四半期 (累計) B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
鉄道事業営業収益	169,926	173,843	+3,916	+2.3%	
旅客運輸収入	155,142	157,841	+2,698	+1.7%	定期 +1,336 定期外 +1,362
鉄道線路使用料収入	778	800	+21	+2.8%	
運輸雑収	14,006	15,201	+1,195	+8.5%	広告料金収入 +936
鉄道事業営業費	121,738	125,506	+3,767	+3.1%	
人件費	41,982	42,142	+160	+0.4%	
経費	43,588	47,649	+4,060	+9.3%	修繕費 +2,363
諸税	4,314	4,305	△9	△0.2%	電気料 +768
減価償却費	31,853	31,407	△445	△1.4%	管理委託費 +697
鉄道事業営業利益	48,187	48,337	+149	+0.3%	
関連事業営業収益	6,167	6,294	+126	+2.1%	
関連事業営業費	3,308	2,968	△340	△10.3%	
関連事業営業利益	2,859	3,326	+467	+16.3%	
全事業営業利益	51,046	51,663	+616	+1.2%	
営業外収益	2,080	2,555	+474	+22.8%	受取配当金 +301
営業外費用	8,146	7,486	△659	△8.1%	支払利息 △611
経常利益	44,981	46,732	+1,750	+3.9%	
特別利益	1,278	3,333	+2,054	+160.8%	受贈財産評価額 +2,069
特別損失	1,311	3,328	+2,016	+153.8%	固定資産圧縮損 +2,051
税引前四半期純利益	44,947	46,736	+1,789	+4.0%	
四半期純利益	28,321	30,746	+2,424	+8.6%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考5】平成27年3月期第2四半期 個別貸借対照表

(単位:百万円)	26年3月期 期末 A	27年3月期 第2四半期末 B	増減		主な増減要因
			金額 B-A	率 (B-A)/A	
流動資産	88,675	70,895	△17,779	△20.1%	現先
現金及び預金	17,631	15,921	△1,709	△9.7%	
未収運賃	24,140	24,328	+188	+0.8%	
短期貸付金	19,003	5	△18,997	△100.0%	
その他	27,900	30,639	+2,739	+9.8%	
固定資産	1,197,580	1,191,646	△5,934	△0.5%	
鉄道事業固定資産	1,037,561	1,029,883	△7,677	△0.7%	
関連事業固定資産	41,818	40,833	△985	△2.4%	
各事業関連固定資産	16,806	16,557	△249	△1.5%	
建設仮勘定	59,318	62,471	+3,152	+5.3%	
投資その他の資産	42,076	41,900	△175	△0.4%	
資産合計	1,286,255	1,262,541	△23,713	△1.8%	
流動負債	188,320	175,050	△13,270	△7.0%	
短期借入金	9,900	15,000	+5,100	+51.5%	
1年内返済長期借入金	32,681	37,581	+4,900	+15.0%	
1年内償還社債	10,000	10,000	-	-	
未払金	40,920	17,412	△23,507	△57.4%	
未払法人税等	17,892	16,120	△1,772	△9.9%	
その他	76,926	78,935	+2,009	+2.6%	
固定負債	652,218	640,522	△11,696	△1.8%	
社債	370,000	360,000	△10,000	△2.7%	
長期借入金	214,749	196,508	△18,240	△8.5%	
退職給付引当金	49,574	65,613	+16,039	+32.4%	
その他	17,894	18,400	+505	+2.8%	
負債合計	840,538	815,572	△24,966	△3.0%	
純資産	445,716	446,969	+1,252	+0.3%	
株主資本	445,659	446,895	+1,236	+0.3%	
評価・換算差額等	57	73	+16	+29.1%	
負債・純資産合計	1,286,255	1,262,541	△23,713	△1.8%	

(百万円未満切捨て表示)

【参考6】平成27年3月期第2四半期決算 運輸成績の概要

[運輸成績は、前年同期比で、輸送人員(合計)が2.1%増、旅客運輸収入(合計)が1.7%増と堅調]

区分	輸 送 人 員			
	26年3月期 第2四半期(累計) A	27年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			人員 B-A	率 (B-A)/A
	千人	千人	千人	%
定 期	700,820 (3,830)	720,466 (3,937)	+19,645	+2.8
定 期 外	522,833 (2,857)	529,229 (2,892)	+6,396	+1.2
合 計	1,223,654 (6,687)	1,249,696 (6,829)	+26,041	+2.1

区分	旅 客 運 輸 収 入			
	26年3月期 第2四半期(累計) A	27年3月期 第2四半期(累計) B	増減	
			金額 B-A	率 (B-A)/A
	百万円	百万円	百万円	%
定 期	67,780	69,116	+1,336	+2.0
定 期 外	87,361	88,724	+1,362	+1.6
合 計	155,142	157,841	+2,698	+1.7

(注)1. ()内は一日平均

2. 単位未満切捨て表示(一日平均輸送人員は除く)

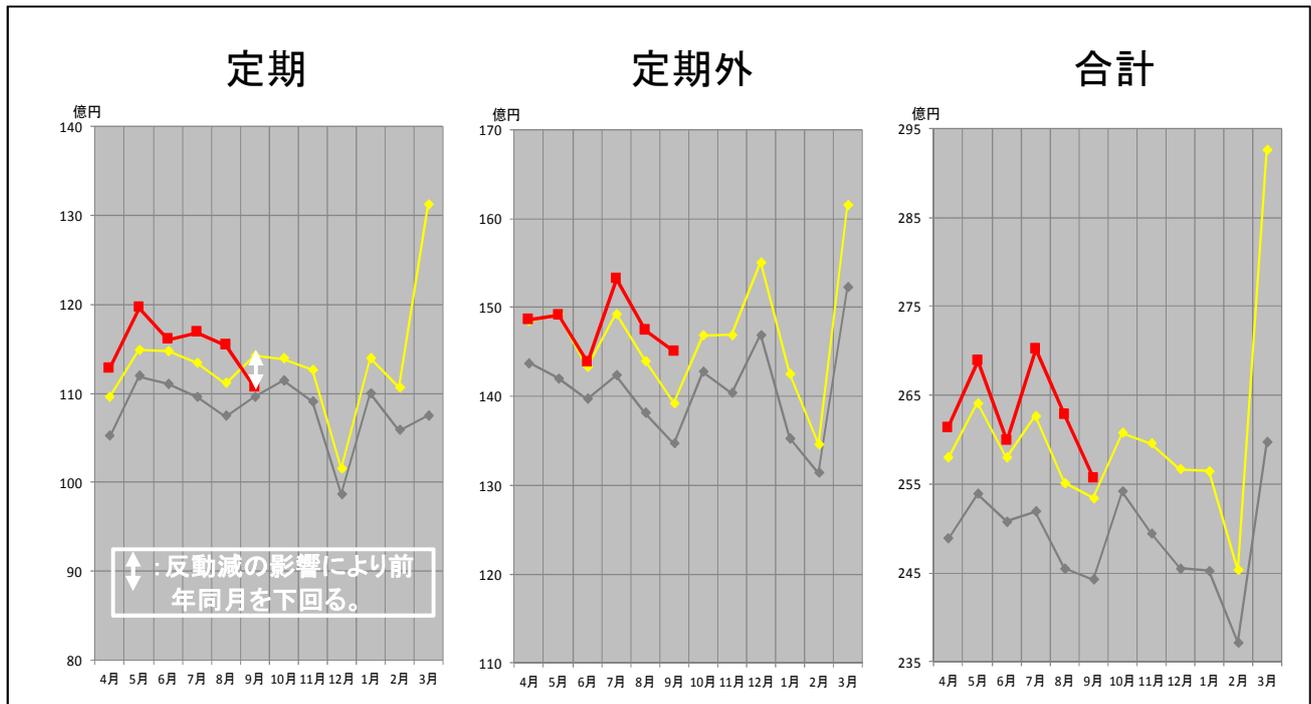
【参考7】主要駅における前年同期との1日平均乗車人員の比較

- 前期末に発生した定期券等の先買いの反動減が生じたものの、沿線の経済活動の活性化や再開発等に伴い、都心・副都心及びその周辺部の駅（大手町、三越前、表参道、西新宿、豊洲等）と副都心線関連の駅を中心に沿線全体で前年同期比でご利用が増加しました。
- なお、国会議事堂前・溜池山王や銀座は減少しましたが、これは駅周辺で大規模な開発プロジェクトの工事が開始されたことによるものです。



【参考8】月別実績の比較(定期・定期外・合計)

- 定期は、4月から8月の各月は前年同月を上回り、堅調に推移しています。9月は、前期（26年3月）に発生した先買いの反動があったために前年を下回りました。
- 定期外は、4月から6月は前年並みに推移しましたが、7月以降は前年同月比で増加に転じて堅調に推移しています。
- 定期、定期外の合計は、各月とも前年同月を上回っています。

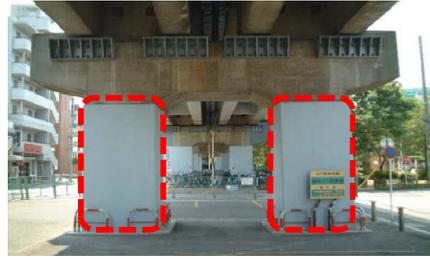


凡例	
■	27.3期実績
◆	26.3期実績
◆	25.3期実績

【参考9】平成27年3月期第2四半期における当社グループの主な取組

●自然災害対策の推進

- ・地震発生時に備えた震災対策の実施
首都直下地震等の発生時における早期運行再開を実現するため、従来補強不要と判定されていた高架橋の柱約1,200本を対象に耐震補強工事を実施しています。
当期は、東西線妙典駅付近等で工事を行い、平成26年9月末現在552本完成しています。(平成27年度完成予定)



耐震補強イメージ

- ・大規模水害に備えた浸水対策の実施
大規模浸水対策として、換気口等への新型の浸水防止機の設置を推進します。さらに出入口については、止水板の改良、腰壁の嵩上げ、既存構造物を利用した完全防水に加え、建て替えによる完全防水を実施するとともに、坑口等への浸水対策についても実施します。

換気口の対策強化(平成27年度完了予定)

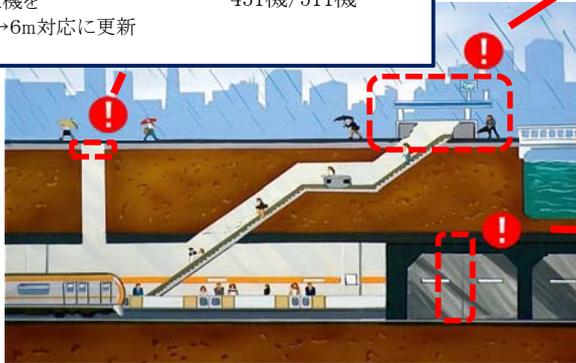
浸水防止機を
水深2m→6m対応に更新

(平成26年9月末設置数)
367機/511機
(平成26年度末設置数(予定))
431機/511機

出入口の対策強化(平成34年度完了予定)

完全防水型出入口(茅場町)
平成26年8月供用開始

〈平成26年9月末設置数〉
29箇所/412箇所
〈平成26年度末設置数(予定)〉
67箇所/412箇所



坑口等の対策強化(平成34年度完了予定)

トンネルの断面を閉鎖
することができる防水
ゲートを設置します。

防水ゲートイメージ

●東西線の遅延解消及び混雑緩和対策

混雑に伴う遅延の解消を目指した取組を進めており、茅場町駅のホーム延伸工事、木場駅のホーム・コンコースの拡幅と昇降設備増設等の改良工事及び東陽町駅の出入口増設工事並びに南砂町駅のホーム及び線路増設工事を進めました。

茅場町駅(平成30年度完了予定)

東西線のホーム延伸・停車位置変更及び日比谷線との乗り換え階段、エスカレーターを増設を行い、混雑緩和及び遅延防止を図ります。

改良後の茅場町駅イメージ

木場駅(平成32年度完了予定)

既設のシールドトンネルを解体し、ホーム、コンコースを拡幅するほか、エレベーター、エスカレーターを増設します。これにより、ホーム階及び改札階の混雑を解消します。

改良前後の木場駅イメージ

東陽町駅(平成27年度完了予定)

西船橋方面ホームの混雑緩和対策として、出入口及び改札口の増設を行います。

東陽町駅出入口予定地

南砂町駅(平成32年度完了予定)

ホーム及び線路を増設し、混雑緩和及び遅延防止を図ります。

改良後の南砂町駅イメージ

●銀座線リニューアル

「伝統×先端の融合」を路線コンセプトとし、銀座線全線のリニューアルを実施しています。引き続き、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えながら、新型車両の導入や渋谷駅移設工事を進めるとともに、銀座線全駅の改良工事を進めます。

ホームドアの設置(平成30年度完了予定*1)

銀座線全駅への設置に向けて、ホームの補強工事を開始しました。

*1大規模改良工事予定の駅除く



ホームドア設置イメージ

1000系車両へ更新(平成28年度完了予定)

新たに6編成導入し、計18編成で営業運転を実施しています。

さらに、平成27年度営業運転開始予定の車両から、PMSM*2とSiC*3を用いた世界初の主回路システムを採用することで、大幅な電力削減を期待できます。

*2 PMSM:永久磁石同期電動機

*3 SiC:シリコンカーバイド



銀座線1000系

全駅改装(平成34年度完了予定)

「東京メトロ銀座線・駅デザインコンペ」の第2弾として、三越前駅など3駅を対象に駅デザインを公募し、入賞作品を選定しました。



三越前駅プラットホームイメージ(最優秀賞作品)

渋谷駅移設工事(平成33年度完了予定)

渋谷駅周辺再開発と連携した銀座線渋谷駅の移設・改良工事を進めています。



渋谷駅完成イメージ

●バリアフリー・駅サービス

ユニバーサルデザインの観点から、全てのお客様にとって、便利で快適な地下鉄を提供します。

ウェルカムボードの設置

外国人旅行者向け「ウェルカムボード」を順次設置しており、上野駅など5駅6箇所で開催しています。



銀座線上野駅(JR上野駅方面改札側)

エレベーター等による1ルート整備

平成26年9月末	98%(135駅/138駅)
平成26年度末(予定)	100%(138駅/138駅)

多機能トイレ整備

平成26年9月末	96%(132駅/137駅)
平成26年度末(予定)	97%(133駅/137駅)



多機能トイレイメージ

ホームベンチ整備

ホーム上のベンチのリニューアル・増設に着手しており、順次、電車を座ってお待ちいただける環境を整えます。

案内サインの改良

駅ナンバリングを充実させるなど、わかりやすく安心してご利用いただける駅を目指しています。新しい案内サインを上野駅にて先行実施しています。



案内サインイメージ

● 再開発との連携

・ 日比谷線霞ヶ関駅～神谷町駅間の新駅整備

生活環境を備えた国際的なビジネス・交流拠点の整備及び交通結節機能の強化を行う虎ノ門地区において、当社は、新駅的设计・工事を受託するとともに、供用開始後の運営管理を行うこととなりました。

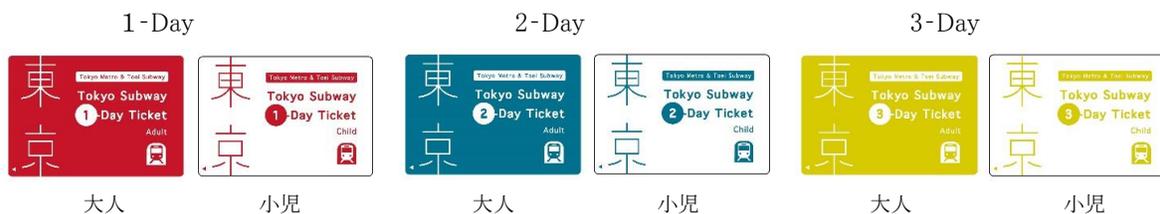
今後、関係機関及び周辺の都市開発との連携・調整を図りながら、新駅の整備を進め、東京オリンピック・パラリンピック競技大会までに供用開始することを目指し、大会会場等への交通結節機能の強化等に貢献します。(新駅の最終完成は平成34年度を予定しています。)



新駅整備イメージ

● 訪日外国人等旅行者向けの取組

前掲のウェルカムボードに加え、平成26年4月より東京メトロ線全線と都営地下鉄線全線がお得に乗り放題となる企画乗車券「Tokyo Subway Ticket」を発売しました。さらに、平成26年7月より、成田空港・羽田空港と都心を結ぶ電車、バスの乗車券を組み合わせた企画乗車券を順次、発売しました。



旅行者用乗車券「Tokyo Subway Ticket」

【参考】平成27年3月期における個別投資実績

平成27年3月期第2四半期における個別投資実績については、安全投資や旅客サービスを中心に279億円の設備投資を実施しました。引き続き、たゆみなき「安全」の追求と、お客様視点に立った質の高い「サービス」の提供を目指し、平成27年3月期においては総額1,048億円の投資を行う予定です。

